

《総 説》

脳のベンゾジアゼピン受容体イメージング 最近の研究動向と展望

森 本 清*

* 香川医科大学精神神経医学講座

要旨 脳のベンゾジアゼピン受容体 (BZR) イメージングの臨床応用について、てんかんとパニック障害 (不安神経症) 患者を対象とした最近の研究動向を解説し、それらの病態生理学的意義についても言及した。

^{123}I -Iomazenil SPECT を用いた局在関連性てんかんの焦点検出率は、脳血流 SPECT と比較して、同等かそれ以上の検出率であり、とくに側頭葉てんかん内側型での有用性が高い。発作間欠期においては、焦点領域の BZR 結合が低下しており、GABA/BZR の脱抑制機序との関連が示唆される。

パニック障害では、海馬を中心とする側頭葉や、頭頂葉、前頭葉の BZR イメージングの異常が報告されつつある。これらの結果は、最近提唱されているパニック障害の BZR 機能不全仮説を、臨床的に証明するものかもしれない。

精神神経科領域における受容体イメージングの今後の発展が、診断的価値だけでなく病態解明の面からも大いに期待される。

(核医学 36: 307–313, 1999)